

特定非営利活動(NPO)法人

仙台敬老奉仕会

<http://sendaikeirou.web.fc2.com>

第78回研修会 ご報告

- ◆日時：令和4年1月29日(土) 午後3時から
- ◆会場：宮城県医師会館2階ホール
- ◆議題：こうして超高齢化社会を乗り切ろう
- ◆講師：吉永 馨(仙台敬老奉仕会理事長)
- ◆司会：鈴木和美(当会理事)
- ◆講演要旨：

日本の高齢化率は28%を超え、世界一であり、めでたい限りであるが、介護問題が重くのしかかっている。孤独死は自殺、虐待などもあり、介護施設は人手不足で困っている。近い将来、団塊の世代が後期高齢者に加わり、事情は更に険しくなる。これをどう乗り越えるかが喫緊の問題となっている。

政府は外国人介護士の導入、ロボットの活用、離職した介護士の呼び戻しなどを進めてきたがあまり成果が上がらなかった。そこで2017年から「地域共生社会」を提唱するに至った。地域の人ボランティアなどを通して地域の問題を解決しようという政策である。欧米では、介護施設にはたくさんの市民がボランティアとして定期的に訪問し、高齢者を見守り、寄り添っている。我々はこの外国の制度を取り入れようと努力してきた。

日本の従来のボランティアは、コーラス団や舞踊団の訪問慰労などが中心で、年寄りに寄り添うことはむしろ禁止されていた。この考え方では地域社会は成り立たない。地域共生社会制度は進まない。

従来の考えを転換し、地域共生の実現を目指すためには学ぶことが重要である。この講演では以上の現実とその対策を具体的に解説した。その内容はユーチューブに掲載してある。

講演風景



当日使用したパワーポイントの紹介

ボランティアを始める

1. 当会、或いは先輩ボランティアがいる施設に申し込む。当会に相談があれば施設を紹介する。
2. 先輩ボランティアについて見学実習する。これを4回実施すれば一人前になる。
3. 相手の老人は、初めは警戒したり、時には嫌ったりする。しかしだんだん馴染んできて、行くと喜ぶようになる。楽しみに待つようになれば成功である(ラポールが形成される)。

ボランティアの内容

1. 挨拶の後、寄り添って何もせず、見守っているだけでも良い。一緒にいること(being)が基本。
2. 友達として接する。なるべく相手の話を聞く。相手が認知症であっても話を聞く。
3. 散歩相手になるのもいい。歌やゲームをするのもいい。折り紙や塗り絵もいい。相手の好みに合わせる。
4. 食事の時、付いてあげるのもいい。スプーンで口入れてあげるのは禁止されている。
5. 一人の相手に15分から1時間の寄り添いが普通。

初めてのボランティア

1. ボランティアの基本は一緒にいること(being)。何かしてあげること(doing)もいいが、それが中心ではない。
2. 始めはこのことに慣れず、何かしなければと焦り勝ちであるが、慣れるとbeingが基本であることが分かってくる。
3. 年寄りには寂しい、人が恋しい。ボランティアがいるだけで嬉しい。孤独感、見捨てられ感が和らぐ。
4. 同じ話をされても、常に合槌を打つ。

施設の受け入れ

1. 募集：市民に呼び掛ける（ポスター、広報誌、広吉など）。
2. コーディネーター（世話役）を決めておく。
3. 応募者のトレーニング（他の施設に依頼することもできる）。
4. 出欠の確認、ボランティアの世話。記録確認。
5. 着かえ室、ロッカー、活動記録簿などを用意。
6. 交通費の支給（受け取らない人も多い）。
7. 敬老奉仕会に相談すれば、わかりやすく説明し、支援します。随時気軽にご相談ください。





寄り添いボランティアの実情

1. 現在実践中：仙台敬老奉仕会、気仙沼市の特養春園苑、富谷市の6施設、角田市の金上病院
2. 現在準備中：角田市市長、東京都二宮氏
3. 現在検討中：気仙沼市、村田町

予告 令和4年度総会・講演会

- ◆日時：令和4年5月21日(土) 14:00～
- ◆会場：仙台市福祉プラザ プラザホール
- ◆演題：こうして超高齢化社会を乗り切ろう
- ◆講師：吉永 馨（仙台敬老奉仕会理事長）
- ◆入場：無料、予約不要 どなたでも参加できます。

CIM ネットのYouTubeから

	「せんだんの杜の挑戦」 せんだんの杜 総合施設長 中里仁
	「超高齢化時代を乗り切ろう」 仙台敬老奉仕会 理事長 吉永馨先生
	「癒しのボランティアネットワーク」 緑の館絵画を楽しむ会 代表鈴木和美
	仙台敬老奉仕会東京分教場開講にあたって CIM ネット 二宮英温

寄稿「仙台敬老奉仕会 東京分教場 開講にあたって」

仙台敬老奉仕会・東京分教場の開講に、吉永馨先生にご指導と激励をいただき、深く感謝いたしております。先生のお話にもありますが、ノーベル平和賞のマザーテレサは、愛を説き、愛を実践した人でした。吉永先生もまた同じように、愛を説いて、いま、仙台で「寄り添いボランティア」を実践しておられます。

吉永先生との出遇いは十年以上も前に遡ります。吉永先生の御活動を「NHK ラジオ深夜便」の夜明け前の番組で知り、先生に連絡を取りました。快く私を受け入れていただき、以来ずっと先生を敬愛し、教えを乞うて参りました。吉永先生が執筆された「日本にボランティア文化を」という著書は、2013年(平成25年)に、CIMから出版させていただきました。そして2019年(令和2年)には、宮城県富谷市の取組みも併せて紹介させていただきました。増補版として出版させていただきました。

私事で恐縮ですが、私は86歳で、現在、介護付き有料老人ホームに入居しております。此処を「終の棲家」ときめて、すでに5年が経ちました。実際に老人施設に入居してから、私は介護施設における寄り添いボランティアの必要性を長く痛切に感じてきました。

東京分教場の開講の主たる目的は、富谷市の実践モデルを教材として、仙台敬老奉仕会の活動を東京首都圏に広めていくためでございます。私の人生最後の仕事として、これから東京分教場の活動に力を注いでいきたいと誓っております。

どうぞ、皆様のご指導、ご賛同を賜りたく、よろしくお願いいたします。

2022年2月 二宮英温

文責 仙台敬老奉仕会理事 鈴木 和美

「仙台敬老奉仕会」事務局

- ・ 〒980-0801 仙台市青葉区木町通 2丁目5-18 大熊ビル3階
- ・ TEL/FAX 022-725-7284
- ・ e-mail sendaikeirou@yahoo.co.jp